

先輩世代と似ているようで違う！

# いまの新人はこんな世代

## 新人世代の共感を得て上司世代との橋渡し役となろう

藤本耕平

株式会社アサツー ディ・ケイ  
プランニング・ディレクター  
ADK若者プロジェクトリーダー



同じ若手として一括りに捉えられがちな先輩世代と新人世代。ここでは、新人世代の特徴や先輩世代との違いについて解説する。

**1. 先輩世代と新人世代の共通点とは？**

分析に入る前に、まずは新人世代と先輩世代の共通点について考えてみたい。

私が「つくし世代」と呼んでいるのは、1992年に小学校に入学した以降の世代（1985年生まれ、現31歳以下）。つまり、先輩である皆さんも新人も同じつくし世代ということになる（**図表1**）。では、なぜ1992年がターニングポイントなのか。それに

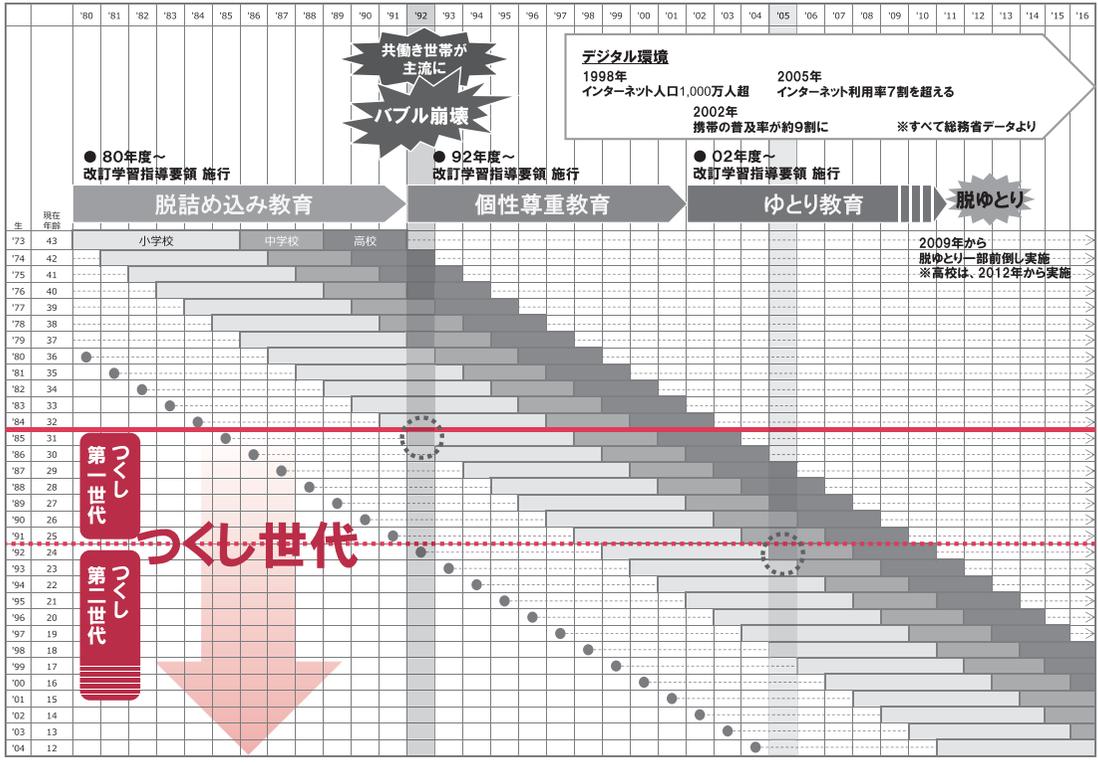
にメンバーになってもらい、彼らの中で流行っていることや興味の あることを一緒に分析するという活動を行っている。この活動により、若者を外側から分析するのではなく、彼らの仲間となって内側から分析できるようになり、これまで見えなかった若者の本音や価値観がどんどん見えてくるようになったのだ。

本稿では、これまでの若者分析の経験とワカスタでの活動を通じて見えてきた、新人世代の特徴と先輩世代との違い、先輩世代としての役割について解説する。

いまの若者という、「さとり世代」や「ゆとり世代」などと表現されることが多い。しかし、マーケティングの仕事を通じて多くの若者と接する中で、そうしたマインドはいまの若者たちにならずとも当てはまらないのではないかと感じ始めてきた。

「欲がない」「消費しない」といった世間の印象とは裏腹に、「仲間とのつながりを大切にしたい」「皆で楽しみたい」ということについては、むしろ他の世代よりも貪欲なのではないか。他人に「尽くす」ことについては強いマイン

図表1 つくし世代年表



は四つの背景がある。

**① 教育の変化**  
1992年に小学校の学習指導要領が大きく改訂され、個性尊重教育が始まった。学力の評価基準も相対評価から絶対評価に変わり、「自分はどうありたいのか」「何がしたいのか」を尊重されて教育されるようになった。

**② 家庭環境の変化**  
総務省の「労働力調査特別調査報告」によると、共働き世帯数が専業主婦世帯数を初めて上回ったのが1992年。この年から、共働き世帯数が一貫して増えていくようになった。

**③ IT環境の変化**  
1992年にインターネットの商用利用がスタート。その後は一家に一台パソコンを持つのが当たり前の時代となり、IT環境が急速に拡大していった。

**④ 経済環境の変化**  
バブルが崩壊したのもこの年。この頃に小学生だった世代には右肩上がりの経済成長を遂げていた時代の記憶はほとんどなく、「失われた20年」に人格形成期の大半と青年期を過ごしてきた世代といえる。

以上の点から、1992年に小学校に入学した以降の世代は、上の世代とは異なるマインドを持つ世代だと考えている。では具体的にどのような点が異なるのか。

**「自分ものさし」で判断**  
つくし世代と上司世代（団塊ジュニア世代、バブル世代等）の大きな違いは、「自分ものさし」を持っているかという点だ。自分ものさしとは、外部環境ではなく、自分の中にあるものごとの判断尺度・価値尺度のことである。

上司世代は、この判断基準を自分の中に持たず、世間やマスコミなどの外部の基準を自分のものとしていた。その象徴的な例が「恋人との過ごし方」だ。かつては、「恋人にとって一番大切な日は何ですか？」という質問に対し、「クリスマス」と答える人が多かった。それは「恋人はクリスマスを大事にするもの」「クリスマス